

第4期という時代と、これからの小野ゼミ生たちへ

第4期ゼミ長 大隈 隆広

このお題をもらってまず考えなければならないことが、私達にはあります。4期生と呼ばれるに値するかどうか、ということです。

私達は、4年次に小野先生が渡米されることを承知したうえで、自主ゼミ生としてこのゼミの門を叩きました。もちろん、これまでの1~3期の諸先輩方と同じように「誓い」を立てて入ゼミしました。3年時には小野先生や3期の方々からの厳しくも親身になった指導を受けインプット期間を終了、その後、アウトプット期間として論文執筆という期間に入っていました。しかしそこから徐々に、私達の集中力は切れていきました。締め切りに間に合わない三田論、許可なく提出した電論、そして全員が書き終えることのなかった卒論。最後は同期の間も減っていきました。

この事実をご存じなかった方もいらっしゃるかと思いますが、私達の“時代”は「誓い」を破る形で卒業していき今に至ります。つまり「4期生」ではなく、私達は「聴講生」という呼び名になるのです。

この現状を理解したうえで、“これからの小野ゼミ生へ”対して私達が伝えたいこと、できること、しなければならぬこと、は何か。その答えに私達が「4期生」と呼ばれるに値するかどうかがかかっているのではないかと考えます。たとえ社会人となった今では現役生と同様の動きをすることが困難といえども、その中で、小野ゼミとコミュニケーションをとりながら、小野ゼミを楽しみ、貢献していくことで「4期生」になっていけるのではないかと考えます。具体策はあげられませんが、1つ伝えたいことは、小野ゼミを、ゼミというコミュニティを大切にしてください、ということです。一生の仲間になると思いますので。

できる形で、これからの小野ゼミの発展に寄与していければと考えております。今後から、また新たに私達「4期生」をよろしく願いいたします。



商ゼミ大綱ソフトボールにて ほぼ4期。